

みやぎご当地トピック



「誰もが楽しめる道の駅にしていきたい」と意気込む小山駅長

東松島市

道の駅東松島

東松島市にある「道の駅東松島」で駅長を務める小山修さんにお話を伺いました。



三陸自動車道と一般道からもアクセスができる



東松島市

「矢本PA」隣接。三陸自動車道上り線から直接乗り入れ!

当道の駅のセールスポイントは何といってもロケーション! 飲食・物販棟の展望テラスからは太平洋が望め、航空自衛隊松島基地所属の曲技チーム「ブルーインパルス」の飛行訓練も楽しめます。物販スペースは地元で採れた農産物が充実。飲食ブースではおかげさまで板海苔と大粒の牡蠣をのせた海苔ラーメン、そして開業に合わせて開発した東松島ブルーソフトクリームが大人気です。観光棟にはVR機器を用いてブルーインパルスの搭乗体験ができるスペースを設けました。当道の駅は三陸自動車道上り線に加え、東松島市道百合子線からも利用可能です。未長く親しまれ、愛される施設になるよう、ますます魅力を高めてまいります!



地場産品だけでなく、ブルーインパルスグッズも豊富に取りそろえる

道の駅 東松島

指定管理者 株式会社東松島観光物産公社 住所 宮城県東松島市小松字上二間堀112-5 TEL 0225-25-6301
 創業 令和6年11月27日 施設 飲食・物販棟(1階物販スペース、2階飲食ブース他)、観光棟(1階観光案内所、VRスペース他)
 営業時間 [年中無休] 物販スペース / 9時~19時、飲食ブース / 11時~19時、観光棟 / 9時~17時 ※一部、営業時間が異なる店舗がございます。

女川原子力発電所運転状況のお知らせ

1号機

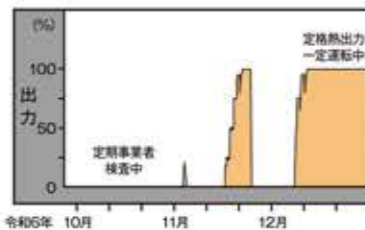
廃止措置中

- 燃料搬出作業
- 汚染状況調査等

2号機

電気出力
825,000kw

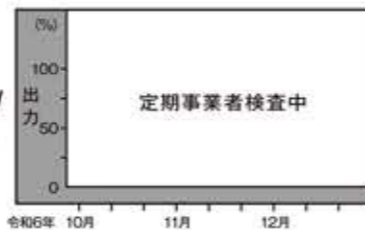
- H22/11/6~R6/12/26 第11回定期事業者検査
- 11/15 発電開始
- 11/24~12/5 中間停止
- 12/7 発電開始
- 12/11 定格熱出力到達



3号機

電気出力
825,000kw

- H23/9/10~ 第7回定期事業者検査中



デジタル身分証アプリ「ポケットサイン」ダウンロード率は40%超!

デジタル身分証アプリのミニアプリの一つ「原子力防災アプリ」で、原子力災害からの避難をスマホで一括サポート!



■利用規約に同意していますか?

アプリで情報を受け取るためには、ミニアプリを開いて利用規約への同意が必要です。

今すぐアイコンを
タップして確認!

まだデジタル身分証アプリをダウンロードしていない方は…
二次元コードを読み取ってアプリをダウンロード!!



原子力だよりみやぎ

宮城県復興・危機管理部原子力安全対策課
 仙台市青葉区本町三丁目8番1号
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gentai/>

原子力だよりみやぎへのご意見ご感想がありましたら、
 こちらまでお寄せください。

TEL.022-211-2607 FAX.022-211-2695
 E-mail:gentai@pref.miyagi.jp.jp

この広報誌は86,000部作成し1部あたりの単価は約12円となっています。



原子力だより

みやぎ

春号

VOL.168
 SPRING
 2025



撮影地: 東松島市滝山公園

02. 原子力防災訓練を実施しました

令和6年6月12日(水)、令和7年2月8日(土)、13日(木)に県と関係7市町は原子力防災訓練を実施しました。

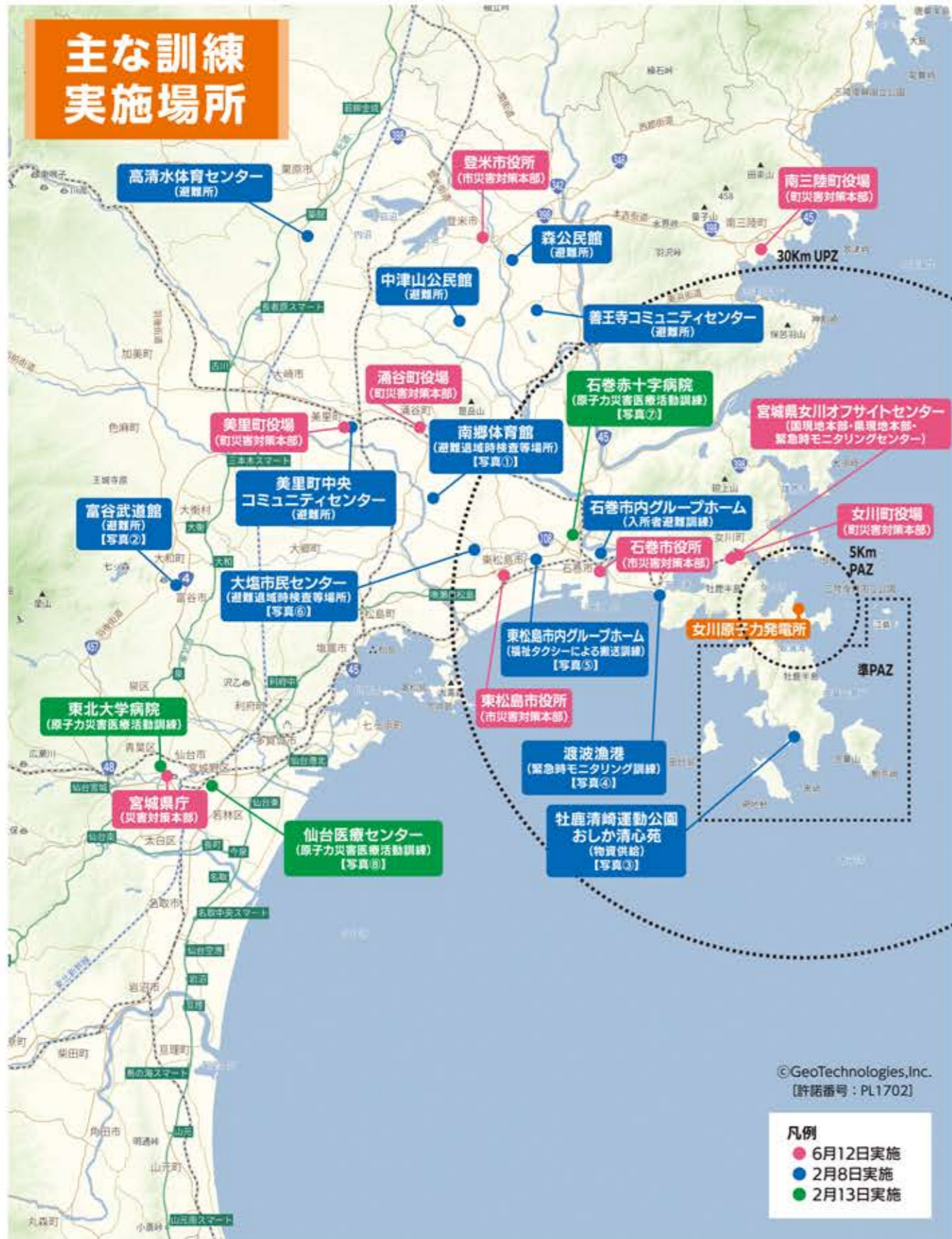
04. 女川原子力発電所周辺の環境放射能調査結果 環境への影響は認められませんでした

06. 女川原子力発電所周辺の温排水調査結果 環境への影響は認められませんでした

08. みやぎご当地トピック

特集 原子力防災訓練を実施しました

令和6年6月12日(水)、令和7年2月8日(土)、13日(木)に県と関係7市町は原子力防災訓練を実施しました。



訓練実施内容

目的

原子力災害発生時における関係機関の防災体制や相互連携にかかる実効性を確認するほか、各種計画やマニュアル等に基づく手順を確認するとともに、関係機関やその要員における原子力防災技術の向上や原子力防災に関する住民の理解促進を図るもの。
 また、「女川地域の緊急時対応」を検証するとともに、訓練結果を踏まえた教訓事項の抽出・改善を図るもの。

令和6年度訓練の特徴

- 図上訓練(令和6年6月12日)**
 - 6月に実施した「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練(図上訓練)において、62機関約700人が参加し、女川オフサイトセンターも開設して、自然災害と原子力災害の複合災害時の初動対応の手順等を確認しました。
- 実動訓練(令和7年2月8日・13日)**
 - 牡鹿半島部に孤立地域を設定した空路による物資供給訓練を実施しました。
 - 自然災害等によるモニタリングポスト欠測を想定したドローンによる緊急時モニタリング訓練を実施しました。
 - 福祉施設入所者を福祉タクシーで避難先施設まで搬送する訓練を実施しました。
 - 原子力防災訓練としては初めて石巻赤十字病院の原子力災害医療棟を活用した訓練を実施しました。

住民避難訓練

女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町で住民参加型の避難訓練を行いました。訓練には住民210人が参加し、避難退域時検査等場所における検査やアプリを活用した避難などを体験いただきました。



①ゲート型モニタによる汚染検査(南郷体育館)



②アプリによる避難所受付(富谷武道館)

令和6年能登半島地震を踏まえた訓練

〈物資供給訓練〉

牡鹿半島に孤立地域が発生した想定の下、陸上自衛隊のヘリコプターにより、牡鹿清崎運動公園まで物資を輸送し、放射線防護対策施設である特別養護老人ホームおしか清心苑に物資を供給する訓練を実施しました。

〈ドローンによる緊急時モニタリング訓練〉

自然災害等によりモニタリングポストが欠測した想定の下、ドローンにより測定地点まで測定器を輸送し、代替測定などを行う訓練を実施しました。



③ヘリコプターによる物資供給(牡鹿清崎運動公園)



④ドローンによる代替測定(渡波漁港)

福祉タクシー等による福祉施設入所者搬送訓練

福祉施設において施設保有車両での避難が困難となった想定の下、宮城県タクシー協会加盟事業者において福祉タクシーによる施設入所者の搬送訓練を実施しました。



⑤福祉タクシーによる避難(東松島市内グループホーム)



⑥福祉タクシーの汚染検査(大塩市民センター)

原子力災害医療活動訓練

原子力災害拠点病院である石巻赤十字病院の原子力災害医療棟などにおいて、女川原子力発電所で汚染傷病者が発生したとの想定の下、受入れ・処置等を行う訓練を行いました。



⑦汚染傷病者の処置(石巻赤十字病院)



⑧汚染傷病者の内部被ばく検査(仙台医療センター)

女川原子力発電所周辺の 環境放射能調査結果

令和6年10月～
令和6年12月

令和6年10月から12月までの環境放射能調査結果を評価したところ、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められませんでした。

1 放射線の強さ(空間ガンマ線量率)

今期の調査結果では、下図のように概ね東京電力(株)福島第一原子力発電所事故前における測定値の範囲内でした。

モニタリングステーション、モニタリングポイント及び放水口モニター設置地点



令和6年10月～12月の測定結果



※1: 令和元年度から運用開始

用語説明 【ナノグレイ(nGy)]放射線に関する単位で、「物質や組織が放射線のエネルギーをどのくらい吸収したかを表す吸収線量の単位」をグレイ(Gy)といいます。ナノグレイ(nGy)は、その10億分の1を表します。

【ベクレル(Bq)]放射能を表す単位で、1ベクレルとは「1秒間に1個の原子が壊れ、放射線を放出すること」を表します。

2 環境試料中の放射能濃度

今期の環境試料中の放射能濃度の調査結果は、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故前の測定値の範囲を超過する試料がありましたが、事故前の測定値の範囲内まで低減している試料もあり、放射能濃度は減少傾向が見られています。なお、その超過した原因は女川原子力発電所の運転状況等から、福島第一原子力発電所事故によるものと考えられます。

令和6年10月～12月の測定結果



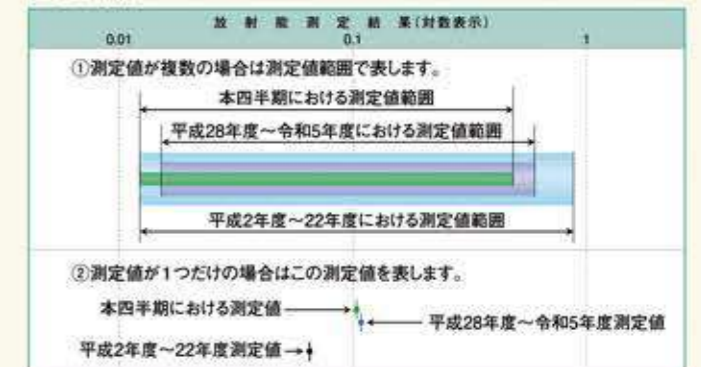
※2: 10, 11, 12月の1ヶ月ごとに採取した結果 ※3: 10~12月の3ヶ月間継続して採取した結果

令和6年10月～12月の調査で放射能核種が検出されなかった試料とその放射性核種名

試料名	放射性核種 ^{※4}
月間降下物(雨水・ちり)	Cs-134
四半期間降下物(雨水・ちり)	Cs-134
水道原水、海水	H-3
精米、アイナメ、マガキ、海底土	Sr-90
水道原水、浮遊じん、マガキ、エゾアワビ、アラメ、ムラサキガイ	Cs-137
海水、アラメ	I-131

※4: 放射性核種 / H-3…トリチウム Sr-90…ストロンチウム90 Cs-134…セシウム134 Cs-137…セシウム137 I-131…ヨウ素131

グラフの見方



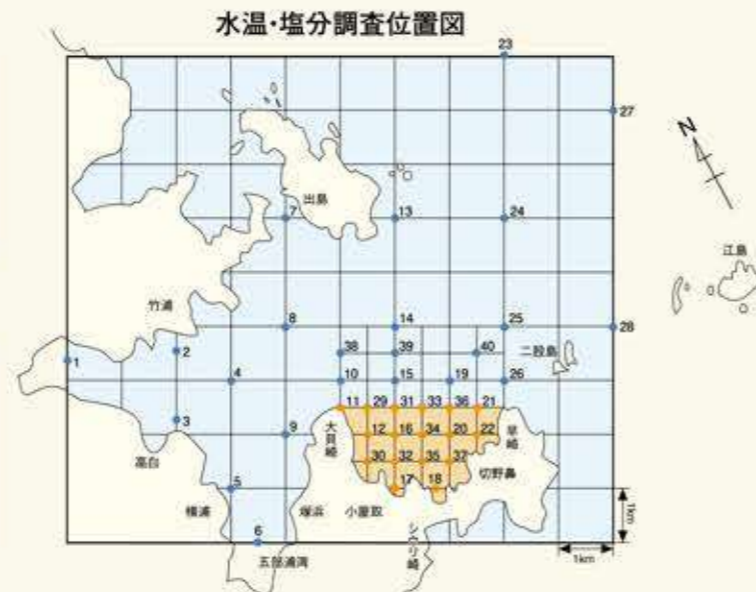
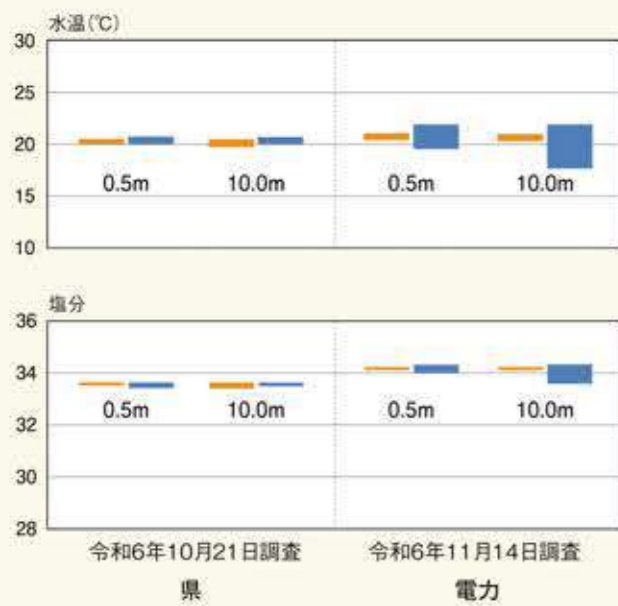
女川原子力発電所周辺の 温排水調査結果

令和6年10月～
令和6年12月

今期の調査の結果、女川原子力発電所周辺において温排水によると考えられる異常な値は、観測されませんでした。

1 水温・塩分調査

今期の調査結果から、温排水によると考えられる異常な値は、観測されませんでした。



前面海域 周辺海域

注1 前面海域とは大貝崎と早崎を結ぶ線の内側(調査点11,12,16,17,18,20,21,22,29-37)をいいます。

注2 0.5m, 10.0mは、調査水深を表しています。

用語説明

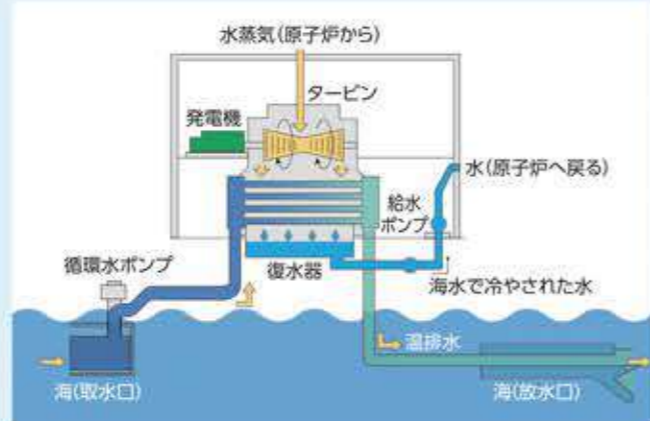
温排水

原子力発電所や火力発電所が稼働中の場合、蒸気力でタービンを回して電気を作っています。

タービンを回した後の蒸気は、海水で冷やされて水に戻ります。この蒸気を冷やした後の海水は、取水した時の温度より少し上昇して海に戻ります。これを「温排水」と呼んでいます。

温排水は、自然の海水温度よりわずかに温度が高くなっていますが、周辺の海水と混ざり合って、温度を下げながら拡散し、自然の海水温度に戻ります。

女川原子力発電所では、温排水が発電所の前面海域及び周辺海域へ与える影響を把握するため、発電所の前面海域及び周辺海域の43調査点で、定期的に調査を行っています。



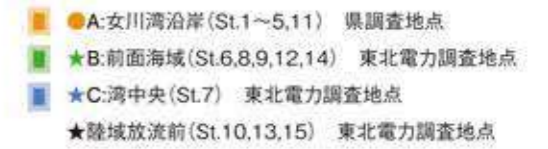
2 水温連続モニタリングによる水温調査

11月の女川湾沿岸及び湾中央(A,C)、12月の湾中央(C)で過去の測定値範囲を超える高い水温(+1.0~2.0°C)が確認され、沖合から流入した黒潮系の暖水の影響によるものと考えられました。

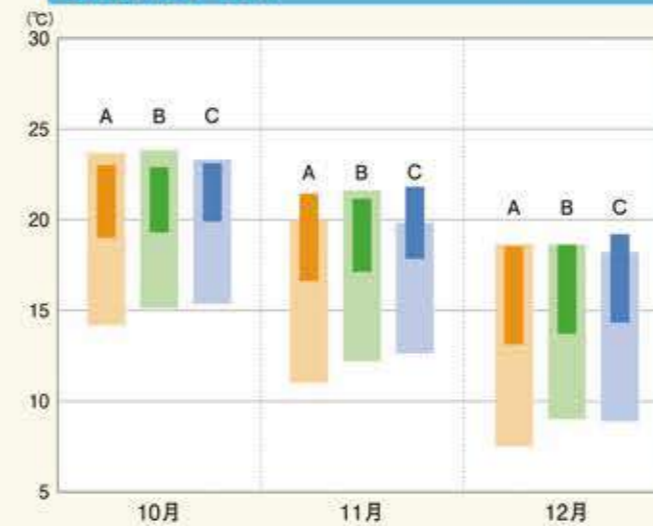
(イ) 水温測定範囲

グラフの見方

水温連続モニタリングにより海水温を測定しています。



令和6年10月～12月



水温調査(モニタリング)位置図



(ロ) 測定点間の水温較差

令和6年10月～12月

